

The QUALITAS

Interview 249

Office Walk on

代表 梶 純子

誠実に、正直に。

Office Walk onは、奈良県の起業家を応援する中小企業診断士事務所です。中小企業経営者様が抱えるさまざまな経営課題の解決に向け、共通認識を持ち、計画査定を行います。私たちが大切にしているのは、真摯に経営者の皆様に寄り添い、徹底して顧客目線に立つこと。新規事業の悩み、お金の悩み、人事の悩みなど、どのような些細なことでも構いませんので、ご相談ください。



同志社大学経済学部卒業後、株式会社リクルートスタッフィングに入社。ライコスジャパン株式会社(現楽天グループ株式会社)へ転職後、前職へ再入社。2015年中小企業診断士に登録、副業で経営コンサルタント業開始。2021年末会社を退職。現在は中小企業診断士として活動。

—前職は、リクルートや楽天グループの企業に勤められていたとうかがいましたが、どのようなご経験を積まれてこられたのですか？

担当してない職種はないといっても過言ではないほど、さまざまな仕事に携わらせていただきました。数多くの優秀な経営者の方や経営コンサルタントの方と仕事をさせていただく機会もありました。中小企業診断士は、中小企業のあらゆる課題を抽出し、会社全体のマネジメントをサポートする役割を担っていますので、多種多様な職種に携わってきた経験が役に立っていると感じます。プロジェクト全体をまとめるマネジメント層として、人の問題からお金の問題、生産、売り上げ、プロモーションなど全体を俯瞰して管理する仕事や、新規事業と既存事業の再建にも長く行ってきましたが、それがまさに中小企業の社長の仕事のように感じました。最後に所属していた部署が、データマネジメント部でしたので、ご年配の経営者様が苦手とするデータ管理やツールの作成に関してアドバイスすることも可能です。これらの知識は、とくに喜んでいただけるように感じます。

—中小企業診断士としてご起業された経緯をお聞かせください。

社内での中小企業診断士の資格取得がきっかけです。当時勤めていた会社は副業が許可されていたため、会社員勤めと並行して、個人で中小企業コンサルタントとして活動をしていました。当初は、本業と副業を両立するスタイルに満足をしておりましたが、新型コロナウイルスをきっかけに、困っている経営者様から非常に多くの相談を受けるようになりました。中には断らなければならぬ案件も増え、サポートできないことへ心苦しさを感ずるようになったのです。「もっと多くの経営者様をサポートしたい」。その想いで独立を決定しました。実際に、コロナ禍で倒産危機にあった企業様の補助金申請をサポートさせていただくなかで、多くの感謝の声

をいただくこともあり、非常にやりがいを感じております。

—会社を経営されるうえで大切にされていることをお聞かせください。

誠実であることです。物事を判断する際には、必ず「正しさ」を基準にしています。どんなに優秀な経営者の方でも、一時の儲け話に乗ってしまったら、真っ当ではない判断をしてしまうこともあるのです。そんなときは一度、考え直していただくような俯瞰的な視点でアドバイスをさせていただいています。その場しのぎの判断ではなく、誠実な判断をしていきたいですね。また、学び続ける姿勢も大切にしています。中小企業診断士は、経営者と同様に常に社会の変化に対応していかなければなりません。これからはデジタルの知識も重要になってくるでしょう。過去の成功体験に固執せず、最新の知識を経営者のみなさまに還元できるように、努力してまいります。

—女性起業家の支援にも力を入れられているそうですね。

今年の2月より、新しく女性起業家支援の事業もスタートいたしました。田舎にいなながらも、女性がのびのびと仕事に取り組める環境づくりに尽力したいと考えております。奈良県は女性の就業率が全国最下位です。奈良県には働ける場所が少ないことが起因していると考えられますが、その一方で有名な大学を出られた優秀な方もたくさんいます。スキルも学的にも高いのは、環境が原因で能力が生かされないのは本当にもったいないことです。そんな人たちの背中を押して差し上げたいですね。起業相談や経営相談はHPから受け付けております。開始して1か月ほどですが、3月に開催されたLED関西と呼ばれる女性起業家を集めたイベントにて、ファイナリストに選出された方の方のコンサルにも携わらせていただきました。今後はそのような輝く女性を、どんどん奈良県から排出していきたいらと思っております。